

日点委通信

No.37

2021年11月1日発行

日本の点字130周年記念事業を開催

2020年は、日本の点字制定130周年に当たることから、関係団体と共催し、11月1日午前、すみだ産業会館において「日本の点字制定130周年記念講演会」を開催した。実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、来場者数を制限し、YouTube の生配信を行った。現在でも https://youtu.be/4jj0I0_dwCU で視聴できる。

講師およびテーマ。① 福島智氏「点字は私の父、指点字は私の母」。② 岸博実氏「<暁天の星>から<満天の星>へ 一点字をめぐる不易・流行」。詳細は「日本の点字」第45号に掲載されている。同誌の墨字版は日点委で購入、点字版は同ホームページからダウンロードできる。

2020 年度研究協議会を開催

同11月1日（日）午後、同会場において、2020年度研究協議会を開催した。参加者55名。テーマ：（a）複合名詞の2拍以下の成分の切れ続きルールの検討（宮村健二）、（b）「医学用語の点字表記」改訂案について（日点委事務局）、（c）試験問題検討委員会からの報告と提案（試験問題検討委員会）、（d）小学部国語教科書の点字導入編について（坂井仁美）。

ブライユの点字考案200年の記念事業の推進について

ルイ・ブライユが点字を考案したとされる年から2025年で200年を迎えようとしている。この間、視覚障害者の社会参加促進にとって、点字が果たした役割は計り知れないものがある。その意義を確認するとともに、点字への理解と一層の啓発・普及を目的として、日本盲人福祉委員会（日盲委）、日本視覚障害者団体連合（日視連）、日本盲人社会福祉施設協議会、日本点字普及協会、全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会、日本点字委員会（日点委）の主催6団体による「点字考案200年記念事業推進委員会」の第1回委員会が8月30日に開催された。

委員長には日視連会長で日盲委理事長の竹下義樹氏、副委員長に日点委会長の渡辺

昭一氏、事務局長に日視連常務理事の後藤英信氏が選ばれた。

なお、事務局は日視連内に設置された。

「日本点字表記法」韓国語版の翻訳・発行

韓国国語院において、『日本点字表記法2018年版』（以下「表記法 2018」と略記）の韓国語訳版発行が計画され、日点委への協力依頼があった。韓国において日本語を学習する視覚障害者が徐々に増えている状況で、日本の点字表記法を翻訳・提供することにより、その学習に供しようとするものである。覚書を取り交わしたのち、同国語院より発行された。点字版と墨字版を各200部印刷して関連機関に無料配布され、点字ファイルと墨字ファイルを国立国語院のホームページで公開している。

「医学用語の点字表記について 第2版」のデータをアップ

第55回総会（2019年）の決定を受けて、2011年発行の「医学用語の点字表記について」を「表記法 2018」に準拠するように見直して、「医学用語の点字表記について 第2版」を完成し、PDFとBESデータをアップした。日点委ホームページの「書籍・資料」の「規則に関する資料」からダウンロードできる。医学・医療関係の試験問題（あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師試験等）・指導用教材・教科書・専門書などの医学用語の点字表記についてまとめた資料であり、掲載した語例が、一般用語の点字表記にまで影響を及ぼすものではない。

『試験問題の点字表記』改訂版編集委員会の設置、及び活動について

2020年12月、下記の件がメール総会によって承認された。

（1）『試験問題の点字表記』改訂に向けた調査・検討委員会を解散し、「『試験問題の点字表記』改訂版編集委員会」を設置する。

（2）委員会の構成は、日点委の委員、および外部からの委員とする。

その後、2021年度総会において『試験問題の点字表記』改訂版編集委員会より下記の報告があった。

委員の構成は次の通り。メール総会で承認された委員：岩屋芳夫、長岡英司、平松智子、福井哲也、渡辺昭一。後日、会長から委嘱された外部からの委員：大藪真知子、坂井仁美、柴田直人、花田和枝。委員長・渡辺昭一、副委員長・長岡英司。

第1回編集委員会を、2021年4月24日に開催した。各種試験問題の調査を継続する必要性が確認された。改訂に向けて、現行「第2版」各部の柱建ての見直し、及び各担当科目の検討を始める。

和田勉事務局長が逝去

本年1月5日、和田勉事務局長（享年56）が急逝された。2016年6月から日点委事務局長を務め、この間、「表記法 2018」をはじめ、表記規則等の改訂、および昨年の「日本の点字130周年記念講演会」等、各種事業の司令塔として、日点委を牽引してこられた。早すぎる訃報に接し大きな衝撃に見舞われた。心からご冥福をお祈りするものである。

日点委の一部の書籍で価格差補償制度利用停止

諸般の事情により、日点委発行の以下の書籍について、当分の間、いわゆる価格差補償の利用ができなくなっているのをご注意ください。

『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』

『理科点字表記解説 2019年版』

マダガスカル大使館からのフランス語点訳の依頼とその対応

8月30日の朝、マダガスカル大使館から「パラリンピックの視覚障害選手に大使からフランス語のメッセージを贈りたいので点訳をお願いしたい」旨の依頼が日点委にも寄せられた。渡辺昭一・長岡英司両委員と鈴和代事務局員が連絡を取り合い、点訳の依頼から点字プリント、大使館への持参と進めて、8月31日のお昼には、無事に大使館に届けることができた。

2021年度日本点字委員会第57回総会報告

標記の総会が、2021年6月5日（土）午後1時～3時30分、オンラインによって開催された。委員21名、事務局員4名、会計監査委員2名の出席があった。3名の委員から委任状が提出された。

1. 報告事項

委員の交代について。盲人社会福祉界代表委員であった佐賀善司氏（岩手県立視聴覚障がい者情報センター）に代わり、木川友江氏（ロゴス点字図書館）が2021年4月から委員となった。

2. 議事

- (1) 2020年度事業報告および決算報告が承認された。
- (2) 2021年度事業計画および予算が承認された。

《事務連絡等》

- ①本年度の研究協議会は、感染状況をみながら年度後半に開催したい。
- ②2022年度の総会・研究協議会は、2022年6月4日（土）・5日（日）、日本ライトハウス情報文化センターにおいて行うことを予定している。

日点委の連絡先、およびお問い合わせについて

事務局所在地は変わりませんが、電話等連絡先の一部を変更しましたので、ご承知おきください。

事務局所在地 〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4 日本点字図書館内
電話 080-3216-8600

Eメール：nitteni2021@gmail.com

ホームページ：<http://www.braille.jp/>

なお、FAXはありません。

点字表記等の問い合わせについては、以下のいずれかの方法でご連絡ください。

- (1) ホームページの「お問い合わせ」から質問する。
- (2) 郵便で質問する(返信用切手を貼った封筒を同封する。ただし、点字による質問・回答の場合は返信用切手は不要)。

電話では原則として受け付けません。点字表記等の問い合わせが寄せられた場合、担当者間で意見交換をし、日点委として責任ある回答をするためには、文字化したものでやりとりしたいという趣旨ですので、ご理解ください。

なお、電話で受け付ける問い合わせは、その場ですぐに答えられる範囲とし、それ以外は、上記(1)(2)のいずれかで問い合わせてくださるようお願いいたします。

日本点字委員会

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 日本点字図書館内
電話 080(3216)8600 振替口座 00100-1-42820

Eメール nitteni2021@gmail.com

ホームページ <http://www.braille.jp/>